

ATLAS NOPPORO

野幌森林再生プロジェクト

野幌森林公園における市民との協働による森林再生



第1章 位置 世界有数の都市近郊林

野幌森林公園は、札幌・江別・北広島の3市にまたがる、約2,000ha (20km²)の広さを持つ自然公園で、その8割が国有林となっています。下の衛星写真のように、野幌森林公園は、都市の近くにあつて広くまとまった面積を持っていることから、オーストリアの"ウィーンの森"やフランスの"フォンテンブロー"と同様に、世界有数の都市近郊林とされています。



IKONOS 画像提供：酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 地理情報学研究室

第2章 森林の特徴 市街地の近くに残された豊かな森林

野幌森林公園の四季の顔

野幌森林公園の森林は、温帯の北限近くに位置し亜寒帯性の植生も加わるため、いろいろな樹種で構成されています。トドマツなどの針葉樹やエゾイタヤ、シナノキなどの広葉樹が混生する針広混交林が広がり、公園を訪れる人たちの目を楽しませてくれます。

ここでは、四季を通じて様々な表情を私たちにを見せてくれます。春になると雪融け間もない頃から様々な草木や動物を見ることができます。木々や動物たちにとっては待ちに待った春の到来で、森林の中は活気づきます。

賑やかな夏が過ぎ、秋が近づくと色とりどりの紅葉を楽しむことができます。晩秋になると、うっすらと積もった雪と鮮やかな色の紅葉に出会うこともあります。

冬は1m以上の積雪となりますが、歩くスキーなどを使って冬独特の静かな森林を楽しむことができます。

季節ごとに変化する森林の風景も、年間30万人以上が訪れる野幌森林公園の魅力のひとつといえるでしょう。



生き物の生息・生育の場としての野幌

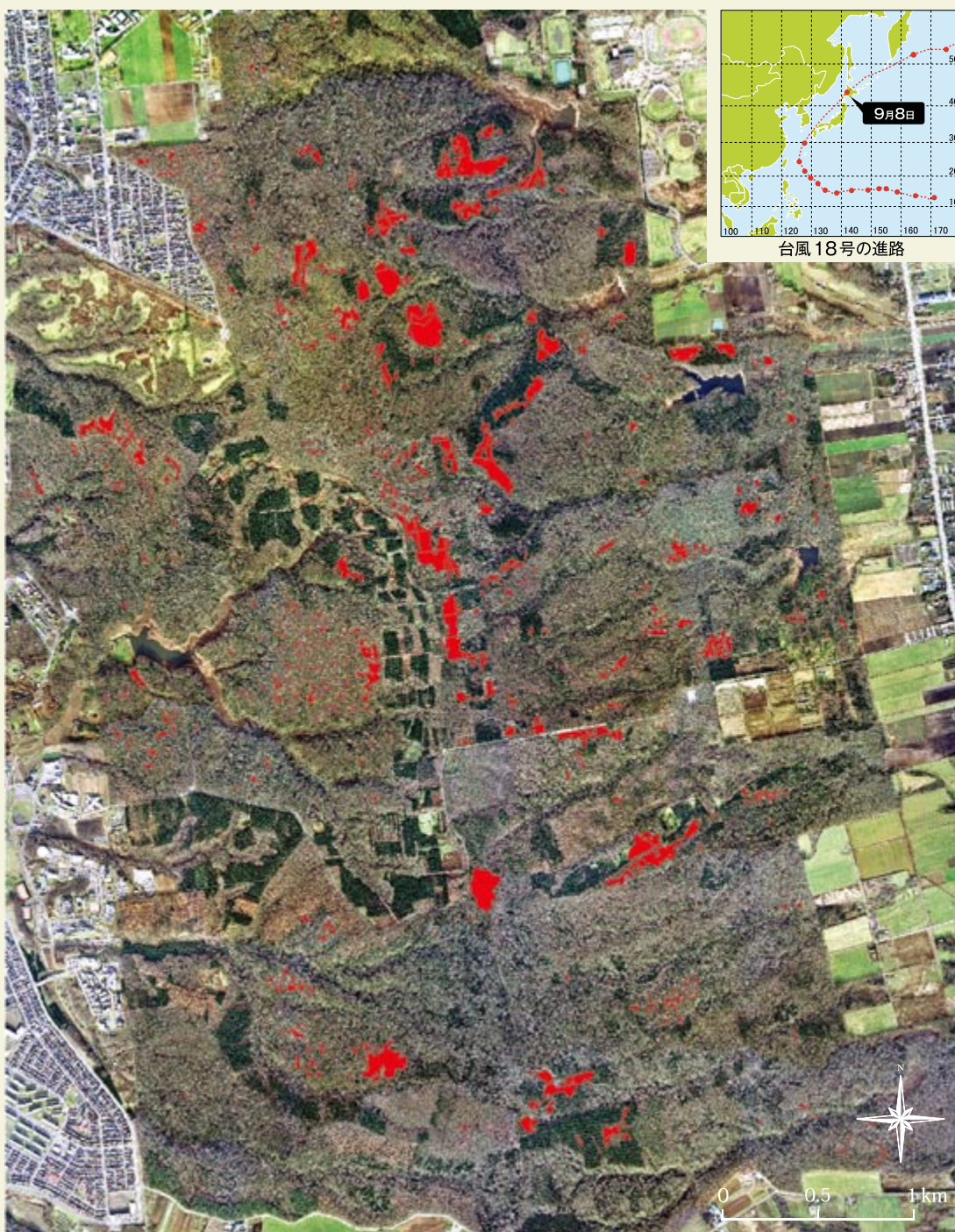
野幌森林公園は、まとまった面積の森林を有するため、様々な動物の生息の場所となっています。野生動物や植物などのふれあいの場としても野幌森林公園は多くの人々に利用されています。

また、野幌森林公園に生息・生育する生物や植物の中には希少種も含まれているため、その生態系に着目した生物多様性の保全等、都市と自然の接点として野幌の森林全体を積極的に保護育成することとしています。



第3章 台風の影響 平成16年・台風18号の爪あと

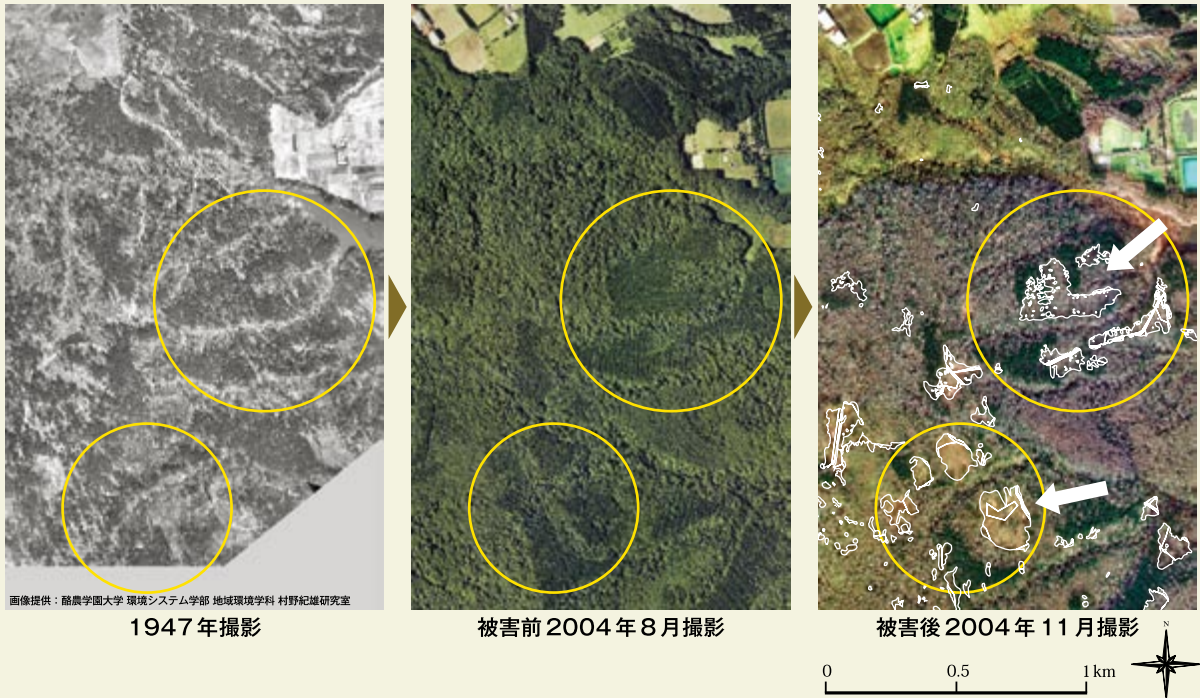
平成16年9月、台風18号が北海道石狩地域付近に接近しました。この影響を受け、野幌森林公園でも広い範囲で風倒被害を受けました（図中、赤色の部分）。台風18号による風倒発生面積は、野幌森林公園全体で約77haに及び、被害の大きかった場所では1つのギャップ（風倒被害箇所）が2ha以上にもなりました。天然林・人工林ともに被害が発生しており、天然林全体の約2%、人工林全体の約10%が被害を受けています。被害のほとんどが根返りであり、一部に幹折れもみられました。被害木の多くは台風18号の最大瞬間風速時の風向とほぼ同じ北方向に倒れていました。天然林の被害については、一部に集中して発生した箇所がありますが、全体的には軽微で、分散しています。また、人工林については、比較的林齢が高く樹高の高い林分であり、加えて、林分密度も高く根系が十分発達していないと考えられるものに被害が生じています。



2004年11月 林野庁北海道森林管理局撮影

空中写真でみる風倒被害箇所

台風による風倒被害箇所の例を下の空中写真に示しました(右下:白線で囲った部分)。1947年、2004年(台風直前)に撮影された同じ場所の空中写真と見比べると、風害の規模の大きさが分かります。



レーザー測量でみる森林の隙間

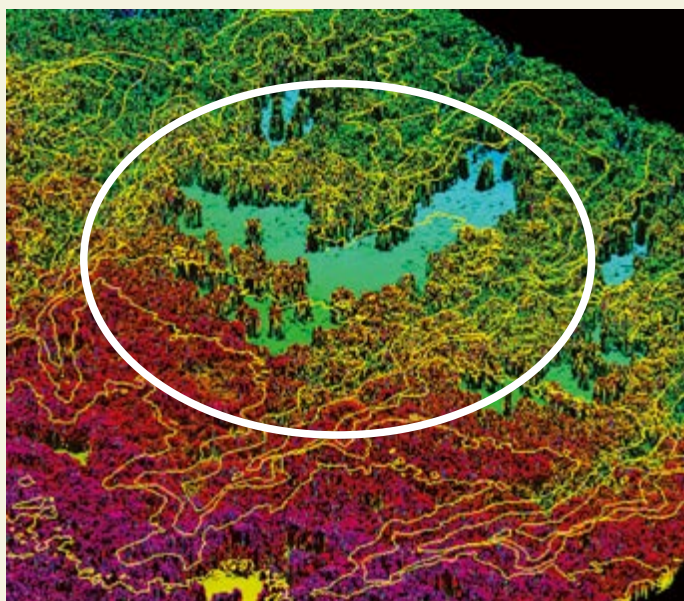
風倒被害は航空機を使ったレーザー測量でも観察されました。図は野幌森林公園北部の樹冠表層の高さを示しています。風倒被害を受けた場所(右下:白線で囲った部分、約2.7ha)では、樹冠層がなくなり地表が見えている様子がわかります。この他、赤外空中写真など最新の技術を使用し、台風被害後の森林の把握に努めています。



航空機レーザー測量のしくみ



右下:白線で囲った部分の風倒被害の様子



航空機を用いたレーザー測量の結果(等高線は5mを示す)

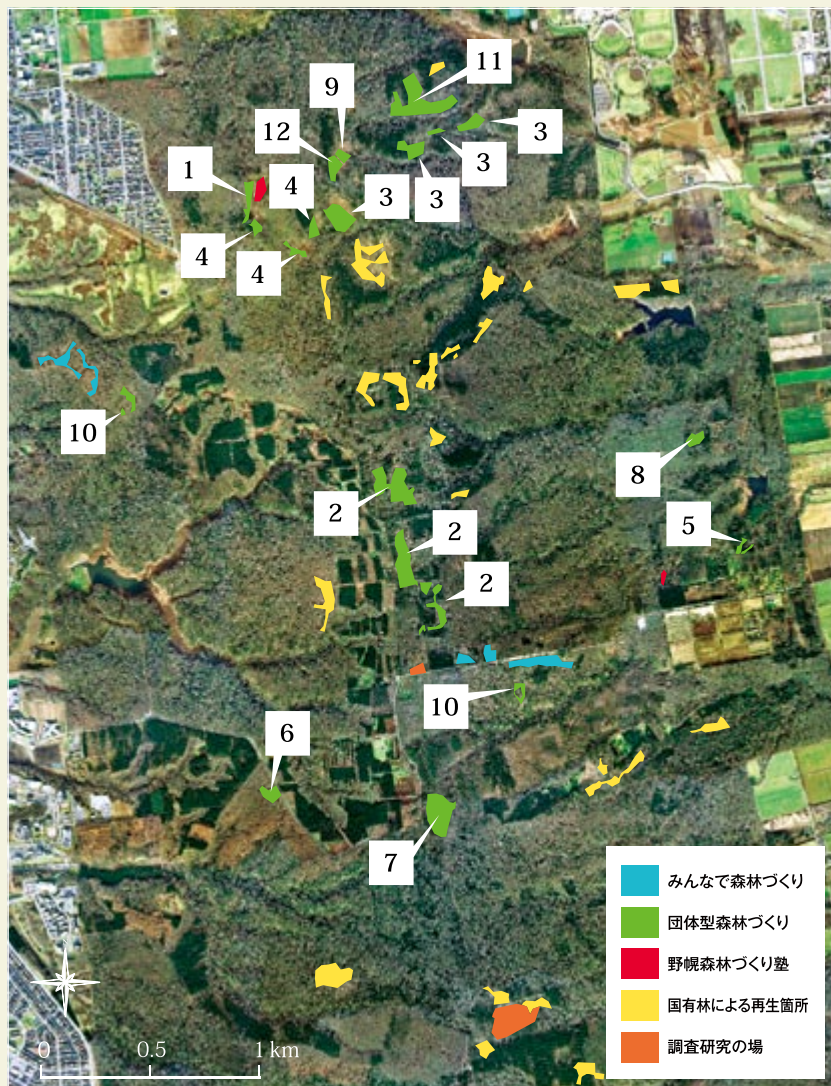
第4章 森林再生のとりくみ 100年前の森林を目指して

野幌森林再生プロジェクトの展開

風倒被害を受けた野幌の森林を、100年前の原始性が感じられる自然林に再生するため、多くの市民の皆さんと協働して、「野幌森林再生プロジェクト」を開始しました。

市民参加の森林づくり・再生の推進

みんなで森林づくり	地元の小学校、市民の皆さんと一緒に植栽、下刈などの森林づくりに取り組んでいます。
団体型森林づくり	NPO、企業、大学など12団体が森林づくりの協定を締結し、一定の期間計画的、継続的に植栽、下刈などの森林づくりに参加しています。
野幌森林づくり塾	市民の皆さんが、植栽などの森林づくりに関する実体験や知識の習得をしながら、森林と人とのかかわりなどについて学んでいます。



「団体型森林づくり」として、次の12団体の皆さんと一緒に森林づくりをしています。

協力団体等

- | | | |
|----------------------|-----------------------|--------------------------|
| 1 NPO法人 森林遊びサポートセンター | 5 NPO法人 シーズネット | 9 野幌森クラブ |
| 2 北の森21運動の会 | 6 札幌もいわライオンズクラブ | 10 レディースネットワーク21 |
| 3 北海道ガス株式会社 | 7 NPO法人 北海道森林ボランティア協会 | 11 酪農学園大学 |
| 4 社団法人 北海道トラック協会 | 8 有限会社 樹木コンサルタント | 12 NPO法人 EnVision環境保全事務所 |

その他のとりくみ

野幌森林再生活動連絡会	「団体型森林づくり」の参加12団体を対象に、森林再生活動の情報交換などを行っています。
野幌自然環境モニタリング検討会の開催と各種モニタリングの実施	平成18年度、学識者と連携し、森林の再生状況を効果的に把握するための手法を定めました。現在、植生、昆虫、菌類及び動物について、モニタリングを行っています。
「調査研究の場」を対象とした森林再生などに関する調査研究	台風18号による風倒被害箇所をそのまま保存した「調査研究の場」を対象に、森林再生などに関する調査研究を大学と連携して行っています。
ニセアカシアなどの外来種に対する検討及び対策の実施	100年前の原始性が感じられる自然林をめざした森林づくりに取り組むことから、ニセアカシアなどの外来種について検討するとともに、その対策を進めています。
市民参加の森林づくりや野幌森林公園の魅力についてPR・情報発信	プロジェクトの各種取組や本林の魅力について紹介、お知らせするため、広報誌・ホームページなどへの掲載、現地の案内板・標識類の整備などを行っています。
野幌プロジェクトフォローアップ委員会	プロジェクトの達成に向けて実行した各種取組を評価し、その改善点の検討を行うなど、プロジェクトをより有意義で魅力的なものにしています。

森林再生に向けて



野幌森林公園に求められる姿は、時代背景と共に変化することが考えられます。「野幌森林再生プロジェクト」を実りあるものにするためには、市民の皆さんと一緒に森林づくりを進めるとともに、定期的にモニタリングを行い、森林再生の段階をチェックし、森林再生に向けた各種取組の評価を行うことが必要です。プロジェクトでは、そのような仕組みをつくり、100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくりに取り組んでいきます。

プロジェクトの目標達成に向けて今後50年、100年先を見据え、市民の皆さん、地元自治体など多くの方々と協働・連携しながら進めていきたいと考えています。



アトラス野幌

第1章 位置 世界有数の都市近郊林

第2章 森林の特徴 市街地の近くに残された豊かな森林

第3章 台風の影響 平成16年・台風18号の爪あと

第4章 森林再生のとりくみ 100年前の森林を目指して



製作・問い合わせ先：

林野庁北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター

TEL.011-533-6741 FAX.011-533-6743

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/

発行：初版 平成18年3月 / 再版 平成19年8月

編集：特定非営利法人 EnVision 環境保全事務所